

製品名: Cacna2d4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07819**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	130kDa

抗原情報

遺伝子名	CACNA2D4
別名	CACNA2D4; Voltage-dependent calcium channel subunit alpha-2/delta-4; Voltage-gated calcium channel subunit alpha-2/delta-4
遺伝子 ID	93589.0
SwissProt ID	Q7Z3S7
免疫原	抗血清はヒト CACNA2D4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 548-597

背景

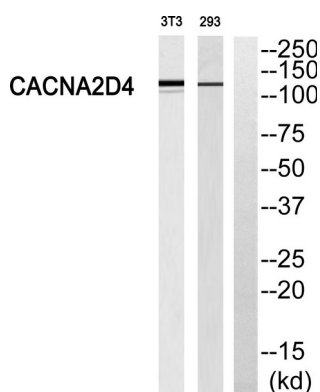
カルシウム電位依存性チャンネル補助サブユニット $\alpha 2\delta 4$ (CACNA2D4) Homo sapiens この遺伝子は、電位依存性カルシウムチャンネル

複合体のタンパク質である $\alpha 2/\delta$ サブユニットファミリーのメンバーをコードしています。カルシウムチャネルは膜分極時に細胞内へのカルシウムイオンの流入を仲介し、 $\alpha 1$ 、 $\alpha 2/\delta$ 、 β 、 γ サブユニットの複合体から構成され、その比率は 1:1:1:1 です。これらのサブユニットにはそれぞれ、類似の遺伝子から発現したもの、または選択的スプライシングの結果として、様々なバージョンが存在します。ウサギの非常に類似したタンパク質に関する研究から、この記録に記載されているタンパク質は $\alpha 2$ サブユニットと δ サブユニットに切断されることが示唆されています。この遺伝子の選択的転写スプライスバリエントが観察されていますが、完全には特徴付けられていません。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: CACNA2D4 の欠陥が網膜錐体ジストロフィー 4 (RCD4) の原因である [MIM: 610478]。RCD4 は、視力がゆっくりと進行性に低下することを除いて、症状が最小限であることが特徴です。、ドメイン:VWFA ドメインの MIDAS 様モチーフは、二価金属カチオンに結合し、インテグリン様スイッチによってアルファ 1 (CACNA1) サブユニットの細胞膜への輸送を促進するために必要です。、機能:電位依存性カルシウム チャネルのアルファ 2/デルタ サブユニットは、カルシウム電流密度とカルシウム チャネルの活性化/不活性化の速度論を制御します。、その他:CACNA2D1 および CACNA2D2 とは対照的に、抗てんかん薬のガバペンチンには結合しません。、PTM:タンパク質分解によってジスルフィド結合したサブユニット アルファ 2-4 およびデルタ 4 に処理される場合があります。しかし、このような切断が実際に生体内で起こり、機能的な役割を果たしているかどうかは不明です。、類似性:カルシウムチャネルサブユニット $\alpha 2/\delta$ ファミリーに属します。、類似性:1 つのキャッシュドメインを含みます。、類似性:1 つの VWFA ドメインを含みます。、サブユニット: $\alpha 2$ -2 鎖と δ -2 鎖の二量体で、ジスルフィド結合しています。電位依存性カルシウムチャネルは、 α -1 (CACNA1)、 α -2 (CACNA2D)、 β (CACNB)、および δ (CACNA2D) サブユニットが 1:1:1:1 の比率で含まれるマルチサブユニット複合体です (可能性が高い)。CACNA1C および CACNB3 と相互作用します。、組織特異性:特定の種類の内分泌細胞で主に発現します。小腸のパネート細胞に存在します。胎児肝臓の赤芽球、副腎網状層細胞、および下垂体好塩基球にも存在する。また、小脳などの一部の脳領域にも低濃度で存在する (タンパク質レベル)。

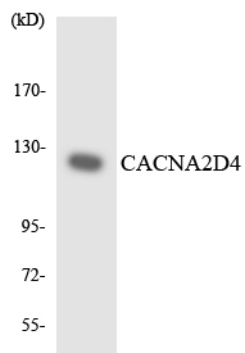
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;心筋収縮;肥大型心筋症 (HCM);不整脈性右室心筋症 (ARVC);拡張型心筋症;

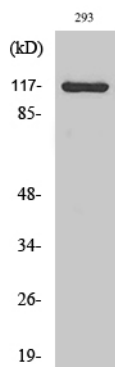
画像データ



CACNA2D4 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは CACNA2D4 ペプチドでブロッキングされている。



CACNA2D4 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



Cacna2d4 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析